

日本PTAと食育

公益社団法人 日本PTA全国協議会

副会長

北川 和也

副会長

大田 紀子

次世代のための食育活動

公益社団法人日本PTA全国協議会は、全国の公立小中学生の保護者と教職員で構成されている団体です。会員数約820万人を有する日本最大の社会教育関係団体であり、全国研究大会開催や調査研究、表彰事業や教育支援助成事業も行い、家庭・学校・地域の連携を深め、児童・生徒の健全育成の増進を図っています。また、広報紙や各分野での全国単位PTAの活動事例集をまとめた書籍発行を通じて、会員の学びの機会を提供するとともに、全国の子ども達の教育環境充実のため、古くは学校給食制定への積極的な働きかけを行い、近年では教職員定数加配問題についての配慮を求める活動を行っています。

日々子ども達に接している保護者としての視点で発言する機会が多くある中、農林水産省所管の食育推進評価専門委員会に参加しています。現在は第3次食育推進基本計画の重点課題「若い世代を中心とした食育の推進」についてのフォローアップ及び、第4次食育推進基本計画決定までのスケジュールについて議論を深めています。第1次から第3次まで、様々な取り組みの中で変遷はあるものの、基本的な方針に揺るぎはありません。これから親になる世代が食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践できるよう取り組んでいます。

農林水産省のホームページからダウンロードできる「啓発リーフレット」は、大変良い出来であり多くの方にぜひ読んでいただき、理解を深める一助になればと感じています。



<リーフレットダウンロード案内ページ>

http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/dai3_kihon_keikaku-2.pdf

食に関する保護者目線—「こ食」について

様々な学びに接する中で知った「こ食」という言葉が強く印象に残っています。「孤食」「個食」「固食」「粉食」「小食」「濃食」の6つに現代の食卓の問題点が凝縮されており、我が家を省みるとともに、多くの保護者に知ってもらい、これからの食を考える手立てにしていきたいと思っています。

共働きやひとり親は全国どの地域において、もはや珍しい家庭環境ではなく、家族が日々十分に時間をかけてコミュニケーションをとる事は難しくなっています。またコミュニケーションをとっていても、現代的な観点から家庭での教育とは違う力が働く事も少なくないと感じます。近年は中学生男子も“細い方がモテる”という観点で給食を残す事があるという話を聞くと、正論をおつけたところで理解は得にくいだろうと少し重い心持ちにもなります。

家庭教育が子どもへの教育の第一歩として、大きな役割を担い続ける事に変わりはありませんが、大人もまたその重責のために孤独になる事のないよう心がける必要があると考えます。保護者が学び続ける場と情報を発信する役割を、これまで以上にPTAが担っていくのも、食への取り組みのひとつと言えるのかもしれない。

PTAの取り組み

全国で行われているPTA活動でも食は様々に取り上げられています。特に給食・お弁当については関心が高く、子ども達に好きな給食おかずアンケートをとって、上位人気おかずのレシピをPTA広報紙に記載したり、全国的に行われる「お弁当の日」に絡めてPTAイベントや講演会を行ったりと、様々な活動が行われています。日本PTA全国協議会では全国の単位PTAで制作されている広報紙のコンクールを行っており、その作品の数々に食に関する活動の報告が掲載されています。審査に携わる外部有識者からお褒めの言葉をいただく事も多く、ひとつひとつの学校で行われている地道な活動が、保護者の食への理解を深めるのに役立っているのではと感じます。



また、家庭教育振興活動の一環として「楽しい子育て全国キャンペーン～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～」として三行詩を募集し、優秀作品の表彰とそれを用いたカレンダーを製作販売しています。全国から15万点近くの応募をいただき、約半年をかけて審査を行ったのち、年末には表彰式を開催しています。今年も素晴らしい作品との出会いを楽しみながら、審査が進んでいます。この活動には文部科学省と厚生労働省とともに、早寝早起き朝ごはん全国協議会にも後援いただき、協議会副会長であり前述の食育推進評価専門委員会座長である服部幸應先生より、直接賞状の授与を行っていただいています。

短い詩文の数々は一瞬の情景に寄せた愛情に満ちたものであり、私達の子育てへの思いを新たにさせてくれます。中でも子ども達を目線から食卓の風景が多く綴られており、家族で囲む食卓の温かさや自分の好物が弁当に入っている時の嬉しさ、仕事で不在にしている保護者が作り置いている食事への

感謝等、ひとつひとつの風景から、食が子ども達的情绪を育むのに大きな役割を担っているのだと強く感じます。

子ども達と栄養教諭・学校栄養職員

栄養教諭・学校栄養職員の先生方は、子ども達が初めて身近に接する食のプロフェッショナルであると思います。学校は家庭の事情如何に関わらず、すべからく学びが得られるべき場所です。家庭でどのような困難を抱えていても、学校での学びの数々はその子が将来を自ら切り開いていく大きな力になると考えれば、教科書を開く時間とともに、仲間と食事をする給食・お弁当の時間も、学びのひとつとして大切にしていってほしいと感じます。なぜしっかり食べる事が必要な、食習慣・生活習慣を整えた毎日が未来や次世代にどう繋がっていくのかといったシンプルな問いに、栄養教諭・学校栄養職員の専門的知識からの助言は今後益々必要とされるのではないのでしょうか。

また、子ども同士で交わされる情報は保護者から見えないことも多く、学校というコミュニティに近く接しているからこそその気付きがあるのではとも推察します。子育て世代の社会における責任が益々重くなっていく中、核家族的視点ではなく学校を中心に多くの大人が知恵を寄せ合い、関わりを持ち次世代を育成する視点が必要であると感じます。

栄養教諭・学校栄養職員の先生方には給食指導やお便り等、様々な形で日頃より子ども達と細やかにコミュニケーションを取っていただいております。心より感謝申し上げます。今後も専門的観点で食を通じてもたらされる喜びと、健康の素晴らしさを子ども達に教えていただきたいと思います。

そして、大切な子ども達の健康で明るい未来のため、保護者や地域と手を携え、ともに歩んでいただければ幸いです。皆様の更なるご活躍をお祈りしています。

